

1 平成23年度の埼玉県小学校学習状況調査結果（設問別結果22問中、正答率の顕著な問題のみ抽出）

【観点別結果】

《 評価の観点 》 1：国語への関心・意欲・態度 2：話す・聞く能力
3：書く能力 4：読む能力
5：言語についての知識・理解・技能

		評価の観点				
		1	2	3	4	5
観点別結果	埼玉県観点別正答率	60.1	95.1	53.2	74.6	76.5
	〇〇小観点別正答率	55.8	94.2	45.7	68.2	77.2
	※ 埼玉県との比較	-4.3	-0.9	-7.5	-6.4	0.7

問題	指導要領	出題のねらい	評価の観点					埼玉県正答率	羽生市正答率	〇〇小正答率
			1	2	3	4	5			
2-(1)	Ｃ	場面の情景を叙述を基に読むことができる。				○		84.7	79.5	78.3 -6.4
2-(2)	Ｃ	登場人物の気持ちを叙述を基に読み取ることができる。				○		74.7	66.3	63.0 -11.7
2-(4)	Ｃ	叙述を基に場面の様子を想像しながら読むことができる。				○		63.4	57.6	52.2 -11.2
3-(1)	Ｃ	文章の内容を的確に読むことができる。				○		70.3	65.9	63.0 -7.3
3-(3)	Ｃ	段落の内容を的確に読み取ることができる。				○		77.7	68.8	71.7 -6.0
3-(4)	Ｃ	文章の要点を読み取ることができる。				○		58.7	56.2	54.3 -4.4

2 分析支援プログラムの「関連探索」を活用した相関係数が高い探索項目抽出による児童の実態把握

(1) 探索項目「国語・観点・関意態」と質問紙項目の場合(相関係数が高い順に表示)

- ① 自分の言うことをまわりの人は分かってくれる。
- ② 学校のきまりを守っている。
- ③ 学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめる。

(2) 探索項目「国語・観点・読む」と質問紙項目の場合(相関係数が高い順に表示)

- ① 自分の言うことをまわりの人は分かってくれる。
- ② 学校が好きだ。
- ③ 学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめる。

3 学習状況調査の結果や分析支援プログラムを活用した授業改善プラン

(1) すべての教科で調べ・考え・表現する授業の実践

- ① 子どもが主体となる学習活動の充実
- ② 子ども同士の話し合いによる課題解決を重視し、根拠に基づいて自分の意見や考えを表現する授業

調 べ

- 目的に応じて情報を取り出す
 - ・文章や図表、グラフなどから、正確に情報を取り出す。

考 え

- 自分の考えをもつ
 - ・取り出した情報を関連づけたり、比較したりして、そこから分かることを推論する。

表 現

- 自分の考えを表現する
 - ・自分の考えを根拠をあげて、言葉や図、式などで表現し、話し合っって課題を解決する。

(2) 国語科における学習のプロセス(本校の学習過程)の工夫

(Aプロセス)「確かな理解」が「表現」につながる

【筋道を立てる : 課題を解決する : 自分の考えを表現する】



(Bプロセス)「表現」することで「思考力」が高まり「理解」が確かなものになる

- ①② : 学習の基礎となる活動
- ③ : 児童の判断や解釈を求める活動
- ④⑤ : ふり返って修正し改善する活動
- ⑥ : 児童同士が様々な意見に触れて学び合い高め合う活動

(3) 協同学習(ジグソー法)の取組

- ① **「問い」の設定** : 「みんなが既に知っていることや、今、教科書に沿った資料を読めばわかること」を3つか4つ、部品として組み合わせて解けるようなものを「問い」として設定する。
また、「問い」を解くのに必要な部品を説明する資料の準備をする。
- ② **エキスパート活動** : 同じ資料を読み合うグループを作り、その内容や意味合いを話し合い、資料を読んでいない他の人たちが理解できるよう準備をする。
- ③ **ジグソー活動** : 違う資料を選んだ人を一人ずつ合わせて新しいグループを作り、担当した資料を互いに説明し合い、最初の「問い」に答えを出す。
- ④ **クロストーク** : それぞれのジグソーグループで答えと根拠をクラス全体に発表し、互いの答えと根拠を検討する。
- ⑤ **まとめ** : 友だちの考えとの共通点や違いを整理し、自分なりの解決をまとめる。

4 家庭学習の手引きを活用した学習習慣の確立

家庭学習の手引き（保護者用）

1 家庭学習のねらい

- 学校では、様々な取り組みを通して基礎学力の向上を図っていますが、家庭との連携を進めることにより、その効果が何倍にも高まります。学習効果を高め、自ら学ぶ習慣を身につけさせるために家庭学習を習慣化させましょう。

2 家庭学習のさせ方

- ① 担任から出る「宿題」を最初にさせてください。
- ② 時間が余ったら、「家庭学習の手引き」の中から選んでやらせてください。
- ③ どうしても勉強にあきてしまうときは、読書でも何でもかまいませんので、必ず机に向かわせてください。「机に向かう」という習慣が大事です。
- ④ 勉強が終わったら、次の日の準備をさせてください。

3 時間のめやす

低学年【20分】 中学年【40分】 高学年【60分】

4 家庭学習における保護者の役割

- ① **学習時間の確保**
聴・習いごと・スポーツなど、子どもたちもいろいろと忙しいと思いますが、短い時間でも「必ず机に向かう」習慣を身につけさせましょう。
- ② **学習環境の整備**
テレビをつけながら勉強しても効果は上がりません。お子さんが、落ち着いた学習環境で学習できるように、各家庭で工夫したり話し合ったりしてください。
- ③ **見届け・励まし**
ほめたり励ましたりしてあげることで、お子さんはどんどんやる気を出します。自主学習ノートにコメントを書いたり、ハンコを押してあげたりするなど、子どもたちへの励ましをお願いします。
- ④ **学校との連携**
お子さんの学習の様子は、連絡帳などを活用して担任にお知らせください。

5 家庭学習における学校の役割

- ① **各学年で大切にしたい学習内容のお知らせ**
学習はすべて大切ですが、学年ごとに特に大切な内容のものがあります。それらについては、通直、懇談会等でお知らせします。
- ② **具体的な学習の取り組み方のお知らせ**
家庭学習の具体的な取り組み方を、機会を見て児童に教えたり、懇談会等でお知らせします。

家庭学習の手引き（5・6年生）

《始める前に》

- ◇ 机の上や、周りを整とんしましょう。
- ◇ テレビや音楽は消し、最後まで集中しましょう。

**はじめに、宿題をしましょう。
宿題が終わったら、こんなことをしてみよう。**

《自主学習 チャレンジメニュー》

- **国語**
 - ・今まで習った漢字をくり返し練習しましょう。
 - ・新しく習った漢字を使って熟語や短文を作りましょう。
 - ・新しく習った漢字の成り立ちを調べてみましょう。
 - ・次に習う物語や、説明文の言葉の意味を調べておきましょう。
 - ・わからない言葉を辞書で調べましょう。
 - ・新聞を読み、興味のある記事について自分の考えで書いてみましょう。
 - **算数**
 - ・計算ドリルや問題集の問題を解いてみましょう。
 - ・まちがえた問題や不得意な問題を、もう1回やってみましょう。
 - ・授業中に解いた問題を、もう一度やってみましょう。
 - ・難しい問題にチャレンジしてみましょう。
 - **社会・理科**
 - ・興味のあることを、教科書や資料集等で調べましょう。
 - ・学習したキーワードを百科事典やインターネットでくわしく調べましょう。
- ※ 今日の授業で習ったことを、自分なりにまとめてみましょう。
※ 自分の力に合わせ、《中学年のチャレンジメニュー》も参考に、自主学習にチャレンジしてみましょう。

《終わったら》

- ◇ 自主学習ノートを家の人に見せましょう。
- ◇ 筆ばこのえん筆をけずっておきましょう。
- ◇ 時間割を確かめて、明日の用意をしましょう。
- ◇ 机の上の整とんをしましょう。

5 成果と課題

(1) 成果

		評価の観点（国語）				
		1	2	3	4	5
観点別結果	埼玉県との比較(H23)	-4.3	-0.9	-7.5	-6.4	0.7
	埼玉県との比較(H24)	-6.4	-0.5	3.2	-4.3	0.8
	※ 昨年度との比較	-2.1	0.4	10.7	2.1	0.1

- ジグソー法を取り入れることにより、人の話をよく聞き、自分の言葉で表現しようとする意欲が高まり読みを深めることができた。
- ジグソー法を教師が学んだことで、他教科へも応用でき、児童の言語活動の充実につながった。
- 読み聞かせやジグソー法を取り入れた授業の実践、ことばの時間等の取組により、日本の伝統的な言語文化に興味をもち、国語好きな児童が育成されている。
- 学習規律を身に付け、落ち着いて学習に取り組めるようになった。宿題や家庭学習等、学習習慣も身に付きつつある。

(2) 課題

- ジグソー法は、各学年の発達段階を考え6年間を見通した指導を明確にしておく必要があり、さらに細かい資料分析をし、年間計画を見直し改善していく。
- エキスパート活動・ジグソー活動では、話し合いを深めるために目的意識をしっかりとらせ、友だちの意見との共通点や違いを十分に交流させる等の工夫をする。